

自己点検評価シート3

大項目 教育委員会が管理執行を教育長に委任する事務

中項目 政策:生涯学習ネットワークの整備充実
 施策:生涯学習システムの拡充

担当課:生涯学習課

小項目	実績	評点	点検評価
公民館運営管理事業	1,252千円 ・公民館館長・主事が主体となって各地区(6地区)ごとにおいて生涯学習等に関する公民館事業(教室、講演会、講座等)を実施し、常に市民が利用するための場を提供した。 各地区事業開催延べ20事業実施、延べ参加者数4,394人 ・市内の中央公民館6館、分館3館での事業運営経費 公民館運営審議会委員(40人)報酬 317千円 館長・分館長・主事(52人)報償 720千円	3.0	公民館運営審議委員の活動内容が不明瞭であり、館長、主事との連携がない地区がある。 地域によるバラツキが感じられる。委員会が支援・助言をしっかりと行い、公民館事業の活性化を図る必要がある。
生涯学習講座拡充事業	3,869千円 ・市民がいつでも自由に学習機会を選択し、学ぶことができるように様々な生涯学習講座(76講座)を開催した。 各種講座開催 延べ参加者数 1,490人(大人960人、子供530人) ・親子の教室:陶芸教室・木工教室・望遠鏡作り等 ・教養講座:トラベル韓国語教室、薬草教室、折り紙教室等 ・趣味の講座:絵手紙教室・寄せ植え作り教室・料理教室等 ・映画鑑賞会:夏休み子ども映画会・春の映画鑑賞会 ・生涯学習事業を推進するための社会教育委員(20人)報酬150千円 ・社会教育関係団体活動支援(地域団体・女性団体)1,339千円 * 社会教育団体 H22年度末44団体	3.5	平成21年度1講座あたりの参加者数は3.1人平成22年度は約2.0人と減少。原因を調査し、多くの人が参加できる工夫が必要

担当課:市立図書館

小項目	実績	評点	点検評価
図書館活動による生涯学習支援提供事業	528千円 市民が自主的な学習活動ができるよう、講演会や各種講座を開催した。 講演会(上野千鶴子氏)308人、教養講座「読書のすすめ」「古文書を通してみた江戸時代の庶民の生活」(2回)延べ58人、農業講座15人、環境講座9人、朗読入門講座(5回)延べ57人、読み聞かせ講座(3回)延べ29人の参加者があった。今年度は、国民読書年事業、「ブックカバー配布」「図書館スタンプラリー」では、全図書館を回った利用者にライラマグネットをプレゼントした。読書感想文おたすけ隊(延46名)詩を楽しむ会(延36名)を行った。また、子どもを対象とした手作り絵本講座、子ども読書まつり、夏休み人形劇、読書フェスタ、工作教室、科学実験あそび、子ども映画会、エコ工作等には、延べ2,072人の参加者があった。 講演会は例年に比べ参加者が多かった。各館の特色ある講座については、どの講座も多少ではあるが参加者が増えている。これからも、講座の内容を検討し、多くの方が参加できるよう実施していきたい。また、広報や図書館のホームページ、ポスター等により市民に周知できるよう努めていきたい。	3.6	講演会については、生涯学習課の講演会と統合させることを検討してみる必要がある。

小項目	実績	評点	点検評価
ブックスタート事業	896千円 南アルプス市で生まれたすべての赤ちゃんに、健康増進課で実施している4ヶ月乳児健診の会場で、ミニおはなし会(てぶくろ人形・絵本の読み聞かせ・わらべうた)を行い、絵本とおすすめ本の小冊子、図書館の案内等に入ったブックスタートバックを手渡している。絵本の読み聞かせが、赤ちゃんの言葉と心の成長に欠かせないものであり、保護者にとっても心安らぐ楽しいひとときであることを伝え、家庭における読み聞かせや図書館利用を勧めている。 年間24回実施 対象乳児数610人(平成22年1月から12月生まれの乳児)	4.0	読み聞かせの大切さについて知る良い機会となっている。
子どもの読書活動推進計画事業	555千円 子どもの読書活動推進協議会においては会議を2回開催した。会議の中で、これからの読書環境の整備をすすめていくためには子どもたちの実態を把握する必要があり、子どもの読書活動や読書環境について調査を7月に実施し、平成23年2月末に「子どもの読書調査に関するアンケート調査2010」として発行した。 図書館としての活動は、幼児と保護者を対象にしたおはなし会(2,019人)、乳幼児と保護者を対象にしたおはなし会0.1.2.(1,401人)を全館で定期的実施している。おはなし会出前サービスとして、司書が保育所に出向きおはなし会を行っている。子育て支援課と連携し、保育所の図書購入時の参考に図書リストの一覧を提示した。	3.6	読書意欲を向上させることに効果を上げている。

中項目 政策:生涯学習ネットワークの整備充実
 施策:生涯学習拠点の整備充実 担当課:生涯学習課

小項目	実績	評点	点検評価
生涯学習施設(指定管理)管理事業	75,806千円 ・市の生涯学習を推進していくため、積極的に指定管理者制度の導入を図り、生涯学習施設の効率的な運用を推進した。また、施設の維持管理に努め、常に市民が利用し生涯学習の場を提供した。 八田高度農業情報センター(18,650千円、16,405人) 若草生涯学習センター(11,160千円、78,658人) 櫛形生涯学習センター(22,334千円、29,189人) 甲西農村環境改善センター(9,401千円、27,158人) 櫛形北地区農村環境改善センター(2,540千円、16,006人) 櫛形西地区農村環境改善センター(2,340千円、8,946人) 働く婦人の家(4,079千円、29,980人) 豊文化教室(150千円、1,353人) 指定管理施設修繕 5,152千円	3.0	不登校児童生徒のための教室がある甲西農村環境改善センターは、指定管理者の管理より直接管理することが望ましいと思われる。
生涯学習施設(直営管理)管理事業	2,418千円 ・市民が自主的な生涯学習等の講座(集会)を開催できるように施設の場を提供した。また施設維持管理に努め、市民がいつでもどこでも必要なときに生涯学習が行える環境を整えた。 白根中央公民館(491千円、3,903人) 白根コミュニティー館(720千円、5,882人) 芦安高齢者コミュニティーセンター(261千円、948人) ふるさと天文館(946千円、775人)	3.4	

小項目	実績	評点	点検評価
<p>図書館資料充実事業</p>	<p>20,000千円 市民の学習要求の多様化・高度化に伴い、最新の資料や情報を整備し、資料提供によって市民の学習意欲の喚起や読書の普及を図った。 図書購入冊数11,370冊(蔵書冊数304,260冊) 視聴覚資料購入数136点(蔵書点数7,391点) 市民一人当たりの資料数4.28冊 館外貸出冊数449,089冊(昨年度より11,804冊の減、市民一人当たり6.16冊の貸出冊数) 貸出冊数の減は、東北地震に伴う、計画停電及び楡形図書館については、開館時間を1時間の短縮などによる来館者の減少によるものと思われる。 新鮮で魅力ある情報を市民に提供できるよう、各館の職員全員で資料を選定し、週1回担当者による選書会議で検討した上で、地元書店組合から購入している。市内図書館の資料が、幅広い蔵書内容になるよう努めている。</p>	<p>3.4</p>	<p>更に蔵書内容の充実に努力が必要である。</p>
<p>市立図書館と地域とのネットワーク化事業</p>	<p>5,604千円 利用者は1枚の利用カードで全館から貸出、返却、予約等ができる。また、携帯電話や自宅のパソコンから図書館のホームページにアクセスし、資料の検索や予約、新しい情報を得ることができるよう、図書館ネットワークシステムの整備をおこなっている。 今年度は、利用者からの質問や調査事項に応じたレファレンスの事例を46件追加し公開した。図書館ホームページからの資料予約数6,691件。おすすめの本の紹介を60回実施した。メールマガジン登録者に、司書のおすすめ本や図書館のお得情報、地域の情報などを載せたメールマガジンを毎月1回送信した。メールマガジン登録件数200件(平成23年3月31日現在)となった。 市内図書館に返却された資料(図書・雑誌)や予約資料は、メール便によって各館に配送されている。市役所メール便が回らない土曜日、日曜日のいずれかの1日を、図書館独自で回り、資料を配送している。回送数15,260冊と年々数が多くなっていることから、複数の図書館を利用している利用者が増えていることがわかる。図書館ホームページからの資料予約数も予約数全体の32.6%をしめている。</p>	<p>3.4</p>	
<p>市立図書館施設充実事業</p>	<p>100千円 白根桃源図書館は、手狭のため、平成22年度から、白根健康福祉センター内の白根児童館の多目的スペースを使用して、図書館事業(春の図書館まつり)を児童館と合同で行い参加者も増えている。 白根桃源図書館が閉架書庫として使用していた中央公民館が商工会となり、旧商工会が白根地区の中央公民館になったため、資料を移動し中央公民館の一室を閉架書庫とした。 各図書館とも蔵書収容スペースが少ないため、収容冊数に限界がある。特に閉架書庫が手狭になってきており、保存スペースの確保が必要となってきている。</p>	<p>3.2</p>	<p>白根桃源図書館は、活動内容・利用者数に比べて狭あいである。</p>

中項目		政策:学校教育の充実 施策:次代を担う人づくりの推進		担当課:教育総務課
小項目	実績	評点	点検評価	
小学校・中学校 教育系パソコン 維持管理事業	5,621千円 新学習指導要領(h14~)に基づき、情報教育を充実するために、全ての教室で児童及び教員がインターネットを活用できる環境を整備している。 また、平成17年度に「南アルプス市教育系パソコン整備計画」を策定し、小中学校間で統一した整備を実施しており、維持管理についても、市内の教育用パソコン端末機器等を一括して保守管理することで、経費の軽減を図っている。 ・教育用パソコンシステム保守業務 ・教育系ネットワーク保守業務 ・教育用パソコン修繕業務	3.2	教員のパソコンネットワークの利用状況に課題がある。	
学校給食一般管理事業	1,408千円 ・学校給食費の徴収事務を行った。 ・毎月口座振替不能者には未納通知を学校を通じて送付、折に触れ納付の勧告も行ってもらっている。督促状の配布や子ども手当による納付、それに電話による催告等により前年度は98.73%だった収納率が99.32%と向上した。 ・平成22年度より給食賦課徴収業務が、業務系システムに移行し収納業務が市収納業務に一元化され簡略化された。	3.5	教育的配慮を行いながら給食費未納保護者からの収納に更なる努力が必要である。 学校との連携を強め、収納率向上に努めた。 前々年度は99.59%であり、継続した対応が望まれる。	
学校給食助成事業	14,236千円 ・少子化対策、子育て支援を目的として、義務教育課程の小中学校等に在籍する児童生徒が3人以上の世帯に対し3人目以降の児童生徒の学校給食費を助成する事業で、学校給食費完納者に対して年度単位で助成する。 ・申請者292人のところ289人に支給し98.97%の助成率。 ・上位目的の少子化対策の成果が図れていないため、次年度に制度改正を行う。	3.4	制度の見直しを行う。	

担当課:南アルプス教育推進課

小項目	実績	評点	点検評価	
特別支援教育等、市単講師配置事業	88,277千円(市単教員34人賃金) ・市単教職員の配置により、児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導の充実を図ることにより、基礎学力の向上及び自ら考える力の育成を図った。また、1学級37人以上の小学校に市単教員を配置したり、複式学級の解消、特別支援教育推進のため障害やその状況に応じた支援員の配置を行った。 ・多人数学級支援 8人、複式学級解消 2人、通常学級における特別支援 22人、大規模校養護教諭補助員1人、小規模校には配置されない事務職員 1人の計34人の支援員を配置した。(昨年度は37人) ・市内小中学校の通常学級において特別支援を必要としている児童生徒が増加傾向にある。	4.2	市独自の配置により、各校の教育充実に大きく貢献している。効果的な実践とそれぞれの市単教師の意欲的な取り組みを期待したい。 個別支援を必要とする児童生徒の増加や学力向上のためのきめ細かな指導に対して大きな成果を上げている。 本市の学校教育の充実のために、必要な事業であり、成果を上げている。	

中項目 政策:学校教育の充実
 施策:生きる力を育む学校教育の推進

担当課:教育総務課

小項目	実績	評点	点検評価
教育委員会関係事務事業	1,675千円 ・教育委員会の円滑な運営を図り、教育行政の基本方針や施策について審議し、決議した。 ・市内小中学校22校の学校を訪問し学校長との意見交換、授業参観、給食試食、施設状況の視察を行った。 ・教育委員先進地県外視察研修(岐阜県本巣市真桑小学校及び愛知県瀬戸市瀬戸養護学校)を行った。その他研修会各種行事へ出席をした。 ・教育振興推進のため、その使命と責務に努めた。	3.8	本市教育の充実と推進を図る上で効果があった。
教育委員会事務局組織管理運営事務事業	11,993千円 ・教育委員会事務局組織に必要な事項を定め、所管事務を明確にし、教育行政事務の適正と効率的な運営を行った。 ・事務用機器、公用車、各種加盟団体への負担金などの支出があった。 ・事務の効率性を高め継続して経費の削減に努めていく必要がある。	3.5	
小林愛則育英奨学会給付事務事業	700千円 ・小林愛則育英奨学金は、基金を基に将来社会の中核となる優秀な人材を育成することを目的とし給付事業を行っている。 ・市内の中学校を優秀な成績で卒業し大学進学を目指している高校生に、奨学金を給付する。 ・給付額は、年間一人10万円を1学年3名を限度とし3年間給付する。 平成22年度は7名に授与し、勉学の励みになっている。	3.6	
芦安育英奨学会貸与事務事業	960千円 ・芦安地区から高等学校等に通学するため、奨学金を希望する者に対して月額1万円、年間12万円を貸与する。 平成22年度貸与者は、8名。 芦安村過疎対策条例(暫定)	2.8	市奨学金制度との統合を検討する必要がある。 県内一学区となった現在、その必要性は薄れてきている。廃止してもよいか検討すべき
就学援助、就学奨励事業	51,903千円 (要保護児童生徒22名、準要保護児童生徒642名、特別支援教育就学奨励児童生徒38名) ・就学に困難な児童に対して、学用品費等を援助することにより義務教育の円滑化を図る。また、特別支援学級に通う児童に対して保護者の負担能力に応じ経済的負担を軽減する就学支援を行った。 ・対象児童生徒の保護者の経済的負担の軽減が図られた。	3.8	
学校図書館蔵書管理事業	5,121千円 ・学校図書館における蔵書管理を電算システムにより行い、市内全小中学校で蔵書の管理を効率的、体系的に行うとともに、学校間での蔵書の情報共有等の機能を活用することで、学校図書館の充実を図った。	3.4	

小項目	実績	評点	点検評価
就学時健診事業	1,518千円(健診児童数 792人) ・翌年度就学予定の児童に対して、健康診断等を行い、就学予定児童の心身の状況を把握して適正な就学指導を行った。 ・健診実施場所を統一化した。知能検査の実施方法の統一化については、公立保育所と私立幼稚園の一部が図られたが、残りの私立幼稚園については図られていないので今後の検討である。	3.4	昨年度の課題解決に向け努力した。
安全対策事業 (防犯ブザー貸与)	277千円 ・登下校時の安全対策として、市内小学校新入生に防犯ブザーを貸与した。(平成17年度で、小学校全員が保有することになった。) ・入学時に新1年生に750個を貸与することで、登下校時の安全管理を図ることができた。 ・中学生にも貸与の要望が3校安全管理の面から現状を把握する中で検討をしていく必要がある。	3.4	小学校入学時に貸与し、以後は個人購入が望ましい。
AED(自動体外式除細動器)配置事業	1,501千円 ・学校行事の中でいつ発生するかもしれない、心肺停止による事故への対応を図るため、市内小中学校22校にAEDを配備している。 ・夏季休業中の2日間(8月9～10日)で、市内小中学校の先生方を対象に普通救命講習会を実施し、AEDの使用方法等の周知を図った。	3.8	校内において使用法についての定期的な講習会実施が必要である。
通学補助事業	1,267千円 ・遠距離通学をしている児童生徒の保護者に定期代を補助し、経済的な負担の軽減を行った。若草小学校(下今井地区1、2年生 37人) ・遠距離通学を行う児童のバス通学を認めることにより、交通事故や不審者等による事件がなく、安全安心な通学を行うことができたが、一方他の学校にも同様な遠距離通学児童もいるため、不均衡が生じている。	3.2	
学校教職員健康診断等委託事業	6,723千円 ・学校教職員の健康診断を行うことで、健康管理体制が充実できた。また、心臓検診を追加した。 (胃検診・結核健診・心臓検診・基本健診・健康相談)	3.6	
学校環境検査委託事業	1,733千円 ・学校において安全に過ごせる学習環境の整備と充実を図るため、室内空気中化学物質検査、ダニアレルギー測定検査を行った。(各校年1回) ・検査結果に対する各学校の対応状況について、検査専門機関に検査依頼を行っており、結果を基に専門知識による指導等を受けた。	3.4	
私立幼稚園就園奨励及び援助事業	20,328千円(20園 374名) ・幼稚園教育を奨励するため、私立幼稚園の設置者に対して入園料及び保育料の減免を行う場合、私立幼稚園就園奨励費を支給した。 ・保護者の経済的負担の軽減が図られた。 ・国の補助事業であるため、各自治体で実施しているが、補助率が1/3以内ということもあり自治体間で所得制限の基準も補助金額も差がある。本市は財政的な理由により所得基準も補助金も国の基準より少ない。	2.8	更に保護者の経済的負担の軽減を図る必要がある。

小項目	実績	評点	点検評価
学校管理事業 (小学校関係)	<p>167,049千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内小学校15校の管理運営を行う。児童が安全に伸びやかに過ごせる学習環境の整備と充実を図ることができた。 ・市内15校の管理運営を行うことで、学習環境の整備と充実を図ることができた。(学校修繕料、管理備品の購入、光熱水費、委託料等) ・老朽化の進んでいる学校については、学習環境の整備のための管理費(修繕料)等の経費が必要になる。 	3.2	
学校管理事業 (中学校関係)	<p>86,493千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内、中学校7校の管理運営を行う。生徒が安全に伸びやかに過ごせる学習環境の整備と充実を図ることができた。 ・市内中学校7校の管理運営を行うことで、学習環境の整備と充実を図ることができた(学校修繕料、管理備品購入、光熱水費、委託料等) ・老朽化の進んでいる学校については、学習環境の整備のための管理費(修繕料)等の経費が必要になる。 	3.2	
教育振興事業 (小学校関係)	<p>82,453千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内小学校15校の振興運営を行う。特色ある学校教育づくり、総合的な学習充実、教育課程を実施することができた。 ・市内小学校15校の振興運営を行うことで、特色ある学校教育づくり、教育課程を実施することができた。(教材補助、各種検査料、教材備品購入、校外行事補助) ・平成23年度からの新学習指導要領の改訂に伴い教材備品等の整備が必要になる。 	3.4	各校の特色ある学校づくりに効果的
教育振興事業 (中学校関係)	<p>77,659千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内中学校7校の振興運営を行う。特色ある学校教育づくり、総合的な学習充実、教育課程を実施することができた。 ・市内中学校7校の振興運営を行うことで、特色ある学校教育づくり、教育課程を実施することができた。(教材備品、各種検査料、教材備品購入、校外行事補助等) ・平成24年度からの新学習指導要領の改訂に伴い教材備品等の整備が必要になる。 	3.4	各校の特色ある学校づくりに効果的
小中学校体育大会等参加補助事業	<p>18,361千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化部、体育部で参加する関東、全国大会に参加するための経費を補助することで、生徒に広くスポーツ実践の機会を与え、体力、技術の向上とスポーツ精神の高揚を図り心身ともに健康な生徒の育成ができた。 ・櫛形中学校駅伝部が、男女とも全国大会出場するなど輝かしい成績を挙げることができた。また、様々な部活動において好成績を挙げることができた。(補助件数40件) 	3.7	活動意欲を高める上で効果を上げている。
学校給食食材事業	<p>391,009千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒等に安心安全な食材をできるだけ安く購入する。 ・児童生徒が生涯にわたって健康で生き生きとした生活が送れるように、また、児童生徒の一人一人が正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身に付けて自ら健康管理ができるよう学校給食を通して食育の推進に努めるとともに児童生徒への学校給食提供にあたり、地産地消の食材も取り入れながら安心安全な食材を安価で購入した。 	3.6	

中項目	政策:学校教育の充実 施策:生きる力を育む学校教育の推進	担当課:南アルプス教育推進課	
小項目	実績	評点	点検評価
外国語指導助手配置管理事業	<p>33,838千円</p> <p>・市内22小中学校へ8人の外国語指導助手(ALT)を配置した。ネイティブなALTを配置することにより、児童生徒のコミュニケーション能力の向上を図り、ネイティブな外国語に親しむことや異文化に触れることが目的である。</p> <p>・新学習指導要領完全実施を見据えて、より計画的に適正なALTの配置が必要である。</p> <p>・小学校に導入される「外国語活動の時間」の充実を図るため、外国語活動の指導方法やALTとの授業の進め方について研修を行い、H23年度から完全実施となる外国語活動についてより一層の理解を深めた。</p> <p>・配置しているALTの外国語授業見学や小学校外国語活動担当者会議を通じ、各小中学校のALTの配置状況やニーズを把握した。</p> <p>・JETプログラム、姉妹都市ALTの配置を今年度で廃止した。</p>	4.1	<p>児童生徒がより楽しく意欲的に学べるよう学校現場での充実活用を期待する</p> <p>小学校においては、授業の中におけるALTの有効な活用について研修が必要である。</p> <p>平成23年完全実施に向け、その取組みは県内においても先進的である。研修や担当者会議を通じて各校へ指導方法・体制が充実してきた。</p>
市指定研究事業	<p>学びの質を高める授業づくり推進事業 300千円(100千円×指定校3校)</p> <p>・南アルプス教育の推進及び学校教育の充実を図るため、指定校3校(白根飯野小・落合小・南湖小)において、南アルプス教育の方針に沿った授業づくりを推進した。</p> <p>・指定校は、習熟や暗記に傾斜した一斉授業の学習形態から、ペア学習やグループ学習を授業の中に取り入れ児童相互のコミュニケーションの機会を増やし、思考の多様性、人との関わり方を大切に授業の研究会を年間を通して実施した。</p> <p>南アルプス自然体験推進事業 300千円(100千円×指定校3校)</p> <p>・学習指導要領では、今後の教育活動において自然体験や社会体験等の体験活動の充実が求められている。本事業の指定校においては、本市の豊かな自然を活かした登山体験や自然体験活動を実施した。これらの活動は、南アルプスの自然の素晴らしさを知り、豊かな感性を育て、仲間作りの大切さを学ぶ機会であり、人間性やふるさとを愛する心をはぐくむ大切な取り組みである。</p> <p>いじめ不登校未然防止推進事業 1,323千円</p> <p>・本事業には指定校5校(八田小、白根源小、白根東小、若草南小、甲西中)を指定し、児童生徒が安心して学習に取り組めるよう、いじめ・不登校の未然防止の視点に立ち、教員が客観的に学級の状態を把握できるQ-Uテストを実施した。さらに、指定校においては、Q-Uテストの分析結果を活かした研究会を行い公開授業も行っている。</p> <p>教職員研修事業 50千円</p> <p>教職員の指導力向上、教育上における見識を深めるための教育講演会を実施した。(参加者198人)</p>	4.1	<p>学校現場を熟知した教育推進課の職員3名との連携により、個を生かす学び合いのある授業へと改善が進み児童生徒の学習意欲が高まっている。</p> <p>自然や環境保護への意欲、郷土愛を育てる上で成果を上げている。</p>

小項目	実績	評点	点検評価
地域ふれあい道徳教育推進事業	<p>950千円 (50千円×13小学校、50千円×6中学校) ・若草中学校区を除く小中学校を指定校とし、特色ある道徳教育の推進及び地域の人々とのふれあいを中心とした道徳教育の取り組みを進め、本市の最重要課題の一つである「心の教育の充実」を図った。 ・取り組みの例としては、外部講師を授業に招き、命の尊さを学んだり、自然保護活動を長年行っている方から南アルプスの自然のすばらしさや自然を愛護する心を学んだり、障害のある方々とのふれあいから思いやりの心や福祉について考える貴重な機会となっている。</p>	3.6	年度末に市内各校の実践を報告し、成果の交流を図っている。
「やまなし」心づくり研究指定校事業	<p>602千円 (若草中200千円、若草小201千円、若草南小201千円) ・家庭・地域との連携の上に、小・中学校が連携し、義務教育9年間を見通した道徳教育推進事業である。 ・地域・小中学校、山梨県、市教委の関係者を小中連携協議会の委員に委嘱・任命し、地域と学校が連携した道徳教育の具体的な取り組みについて協議した。</p>	3.8	地域ぐるみで「心の教育の充実」にあたり、今後に期待したい。今まで地域と連携し培ってきた道徳教育の集大成として、取り組みを支援したい。
道徳教育総合支援事業	<p>4,173千円 ・山梨県教育委員会からの委託事業 ・道徳教育用教材活用(文部科学省が著作権を有する教材)を購入し、道徳授業に使用する。</p>	3.4	
小学校指導書・教師用教科書購入事業	<p>21,642千円 小学校における新学習指導要領が平成23年度より完全実施になることに伴い、小学校教科用図書採択の結果を受け今後4年間使用する教科書が決定した。これを受けて、指導書及び教師用教科書を購入した。</p>	3.3	現場での有効活用に期待する
南アルプス市教育支援センター事業	<p>5,954千円 ・学校へ登校することが困難な児童生徒が通う適応指導教室では、学校復帰を目指し、家庭と連絡を取りながら学習支援、教育相談を行った。 ・支援センターの知名度や支援を必要としている人が増大しているため入室者や相談者が大幅に増加した(入級登録者数30人(平均登所者数10人)、相談件数986件(最大数))。 ・家庭、学校、関係機関との連携を図り、登所していた中学校3年の生徒が高校へ進学した人数は14人となっている。 ・入室者や相談者が増えたことにより、緊急雇用制度を活用し適応指導教室での学習支援体制を充実させ、1～3月の3ヶ月間指導員を1名採用し対応した。</p>	4.2	不登校、発達障害等の課題のある児童生徒にとどまらず、保護者、教師への支援相談など献身的に対応し大きな成果を上げている。相談者と学校をしっかりとつなげていく取り組みを続けたい。

小項目	実績	評点	点検評価
地域ぐるみの学校安全体制整備事業(スクールガードリーダー・学校応援団に関すること)	<p>スクールガードリーダー事業 623千円</p> <p>・学校安全管理の一層の充実を図ることを目的とし市内に4名のスクールガードリーダーを委嘱し、学校巡回指導・学校施設整備の点検・放課後における安全パトロール・通学路の安全点検・児童への安全指導を行った。</p> <p>・スクールガードリーダーと各地区の「子を守る会」「孫を守る会」等のボランティアが連携しながら、効果的な安全管理を図ることができている。(スクールガード登録者数 H22年度 1,825人)</p> <p>南アルプス市学校応援団事業 1,509千円</p> <p>・学校の教育活動への支援を行うために学校応援団実行委員会を組織し、また市内の各中学校区において地区代表・コーディネーターを中心に学校応援団を組織した。</p> <p>・それぞれの地区において、地区内の各学校からの教育的ニーズに対応できるボランティアを募集し、ボランティア人材バンクを整備した。(ボランティア登録者数 H22年度末439人)</p>	4.0	<p>担当課職員の的確な企画と運営努力により、学校応援団事業が地域に根付いてきている。学校支援ボランティアの受け入れによって体験的学習が充実拡大した。また、学校応援団によって学校と地域の連携がより強化された。</p> <p>学校と地域をつなげる核として支援を続けたい。</p>

中項目

政策:学校教育の充実
施策:学校施設の整備充実

担当課:教育総務課

小項目	実績	評点	コメント
小学校施設整備事業(単独)	<p>4,177千円</p> <p>小学校(15校)の既存する施設及び設備について、耐震補強及び改修を最優先に実施する中で、経年劣化等に伴う施設改修や設備更新を行っており、学校間の格差を是正し、学校施設の耐久性を計画的に向上することができた。</p> <p>・落合小灯油タンク改修工事 (H21からの事故繰越)</p> <p>・小笠原、落合小電話機更新工事 設計 329千円 (H23に明許繰越)</p> <p>・豊小土壌地下水ボーリング調査 6,300千円</p>	3.6	
安全安心な学校づくり交付金小学校施設整備事業	<p>125,076千円</p> <p>白根東小学校屋外水泳プール改築事業 築後33年が経過しており、施設(コンクリート製プール)設備共に老朽化が進み、また低学年用プールも未整備であったため屋内運動場改築事業と併せて改築施工。</p> <p>・FRP製プール、25m×15m(7コース)、10m×5m(低学年用)</p>	4.0	<p>屋内運動場と共に改築ができ、経費の節減が実現した。</p>
経済危機対策臨時交付金(小学校)	<p>12,071千円</p> <p>市内小学校において、新学習指導要領に対応した理科教育設備の整備及び老朽化した機器の更新を行った。</p>	3.6	

小項目	実績	評点	点検評価
きめ細かな臨時交付金小学校施設整備事業	119,730千円 H21からの明許繰越 平成21年度経済対策事業である『きめ細かな臨時交付金』により、安心・安全な暮らしの実現及び防犯・防災強化を図るため、教育施設の耐震化対策事業等施設整備を実施している。 ・櫛形西小校舎屋上防水工事 ・白根飯野小グラウンド改良工事 ・小笠原小床改修工事 等 H23に明許繰越 ・若草小屋内運動場改修工事 ・若草小給食配膳室改修工事 等 46,426千円	3.6	
公共投資臨時交付金小学校施設整備事業	503,057千円 H21からの明許繰越 平成21年度経済対策事業である『経済危機対策・公共投資臨時交付金』により、安心・安全な暮らしの実現及び防犯・防災強化を図るため、教育施設の耐震化対策事業等施設整備を実施している。 ・白根東小屋内運動場改築工事 ・南湖小屋内運動場改築工事 ・小笠原小、大明小、南湖小太陽光発電設備工事	3.6	
中学校施設整備事業(単独)	1,202千円 中学校(7校)の既存する施設及び設備について、耐震補強及び改修を最優先に実施する中で、経年劣化等に伴う施設改修や設備更新を行っており、学校間の格差を是正し、学校施設の耐久性を計画的に向上することができた。 ・白根御勅使中屋内運動場照明改修工事	3.6	
経済危機対策臨時交付金(中学校)	2,181千円 市内中学校において、新学習指導要領に対応した理科教育設備の整備及び老朽化した機器の更新を行った。	3.6	
きめ細かな臨時交付金中学校施設整備事業	15,465千円 H21から明許繰越 平成21年度経済対策事業である『きめ細かな臨時交付金』により、安心・安全な暮らしの実現及び防犯・防災強化を図るため、教育施設の耐震化対策事業等施設整備を実施している。 ・白根御勅使中教室ドア改修工事 ・若草中防球ネット嵩上げ延長工事 ・櫛形中武道場新築工事(設計) 等 H23への明許繰越 ・八田中インターホン改修工事 ・若草中トイレ改修工事 等 26,817千円	3.6	

小項目	実績	評点	点検評価
公共投資臨時交付金中学校施設整備事業	<p>304,391千円 H21から明許繰越</p> <p>平成21年度経済対策事業である『経済危機対策・公共投資臨時交付金』により、安心・安全な暮らしの実現及び防犯・防災強化を図るため、教育施設の耐震化対策事業等施設整備を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八田中、白根御勅使中武道場建設工事 ・白根巨摩中・甲西中太陽光発電設備工事 	3.6	
学校給食施設整備事業	<p>3,837千円</p> <p>・学校給食施設の備品において老朽化が顕著となっているため、緊急性を優先して、単独校・給食センターの備品を計画的に整備・充実した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・櫛形北小・豊小 ガス湯沸し器と温水ボイラーを更新した。 ・若草学校給食センター 器具消毒保管機・冷蔵庫(200V・100V)を更新した。 ・今後随時整備をしていく必要がある。 ・今後も引き続き食中毒防止に努めていく。 	3.6	
学校給食施設維持管理事業	<p>71,612千円</p> <p>・センター3箇所(白根八田・若草・芦安) 自校式8箇所(小笠原小・櫛形北小・櫛形西小・豊小・落合小・甲西中大明小・南湖小・櫛形中)の維持管理費</p> <p>・学校給食の質の維持及び向上を図るため施設設備の維持管理に努めた。また、食中毒を防止するため施設や職員の衛生管理に万全を期した。</p>	3.4	

中項目 政策:青少年の健全育成
 施策:健全育成支援体制の強化充実 担当課:教育総務課

小項目	実績	評点	点検評価
芦安南アルプスチロル学園運営事業	17,942千円 芦安地区の子どもたちと都市の子どもたちの交流事業として、また過疎地域の活性化のため小学校4年生から中学校3年生までの寮生7名を受け入れている事業。 ハイキングや登山体験のほか、四季折々の地域の祭りへの参加や料理体験、など毎月多くのイベントを実施。 芦安小中学校の児童生徒数の維持など、その役割は小さくなってきており、今後のあり方は課題。 ・歳入:入園負担金、学園使用料等4,713千円 ・歳出:臨時職賃金や賄い材料費等17,942千円	3.0	地域活性化対策とチロル学園の存続について総合的に検討していく。 事業の目的が果たされているか見直しが必要である。

担当課:生涯学習課

小項目	実績	評点	点検評価
青少年健全育成推進事業	1,190千円 ・青少年を有害な環境から守るために、青少年育成南アルプス市民会議と協力し市内有害図書自販機・ゲームセンターの現地調査と書店の指導等を行い環境浄化に取り組んだ。また、チラシや広報誌を全戸配布し、家庭や地域に青少年の心の成長・地域活動支援や非行防止を呼びかけ、青少年の健全育成の推進に取り組んだ。 ・白根、若草地区に設置されている有害自販機について、今後も市民の協力を得る中で撤去に向けて取り組んでいく。 青少年の非行問題に取り組む強調月間チラシ・・・7月上旬 夏の青少年生活指導要項・・・7月中旬 冬の青少年生活指導要項・・・12月中旬 広報誌「南アルプスの青少年」・・・3月中旬 「家庭の日」「青少年を育む日」 標語の部最優秀作品のチラシ・・・3月中旬全戸配布	3.5	
ジュニアリーダー養成事業	586千円 ・学区内を超えた仲間と、団体活動や集団生活を通して自立・協同・奉仕の精神を体験的に学習し、ふだん学校や家庭では得られない経験を体得し、地域の中で指導力・行動力を持つ頼られるジュニアリーダーの養成と確保を図った。 研修場所:山梨県立八ヶ岳少年自然の家(1泊2日) 1班 8月10日(火)～11日(水) 2班 8月17日(火)～18日(水) 参加児童:市内小学6年生 105名 リーダー:ジュニアリーダー養成過程を終了した中学1・2年生71名	3.4	ジュニアリーダーに参加した成果と今後の課題の確認が大切

小項目	実績	評点	点検評価
各種子ども祭り 開催事業	1,351千円 ・祭りをとおして遊びの中で、異年齢の仲間や地域の大人との交流や親子の絆を深めるとともに、地域の歴史文化や芸能を伝承することを目的に子ども祭りを開催した。 甲西子どもまつり7月27日(火)、櫛形世代間交流フェスティバル8月12日(土)・11月27日(土)、芦安子ども夏祭り7月11日(日)、白根桃っこ祭り11月3日(水)、若草三世代ふれあい祭り12月12日(日)	3.4	
子どもクラブ親睦 球技大会開催事業	476千円 ・スポーツを通して、健全な体と精神を養うとともに、子どもクラブ員相互の親睦を深めることができた。また、中学生が小学生の面倒を見たりアドバイスすることで指導力や協調性を学ぶことができた。 開催日:平成22年7月31日(土)~8月1日(日) 男子:ソフトボール(17チーム) 女子:ミニソフトバレーボール(16チーム)	3.2	異年齢の子どもたちが交流できる機会であるが、毎年参加チームが少ない。多数のチームの参加を望みたい。参加チームの固定化と県大会に参加できない現状を考えると検討することも大切
放課後子ども教室 推進事業	813千円 ・大明小学校の児童を対象に、大師公民館を安全・安心な子どもの居場所作りの活動拠点とし、毎週水曜日に地域の方々の協力を得て放課後子ども教室を実施している。異年齢の子どもたちが自由に遊んだり、スポーツや工作、体験活動等を通じ友達を増やし、また、地域の大人と交流することにより、人づき合いや自然にルールを身につける力を育てている。 ・今後も地域が一体となって、子どもたちを見守ることのできる環境づくりを推進する。 H22年度48回開催 1回あたり平均30名の参加実績	3.2	地域の子供達の居場所づくり、人格形成に効果的な事業である。 大明小の子供たちだけでなく、他地域にも広げては。
成人式挙行事業	2,444千円 ・次代を担う新成人の門出を祝福するとともに、祝い、励まし、新成人たちにも成人としての自覚と行動をあらためて意識する機会として成人式を挙行了した。 実施日:平成23年1月9日(日) 会場:桃源文化会館 成人者:859名(参加者702名)	2.8	成人者の意識を高めるための工夫を更に考えていきたい。 式のあり方について検討が必要である。
青少年健全育成 推進団体補助事業	5,153千円 ・次代を担う青少年の健全育成を図るために、多様化する青少年問題を考え様々な活動に取り組んでいる諸団体に対し補助を行った。 補助金交付団体 ・青少年育成南アルプス市民会議180千円 ・6地区青少年育成地区民会議4,537千円 ・市子どもクラブ指導者連絡協議会137千円 ・南アルプス警察署管内少年補導員連絡協議会299千円	3.2	

小項目	実績	評点	点検評価
国内姉妹都市交流事業(石川県穴水町)	662千円 ・友好姉妹都市である石川県穴水町との交流を図るため、市内の児童を連れて穴水町を訪問した。 訪問期間 3泊4日 訪問児童数 20人	3.2	
国内姉妹都市交流事業(北海道津別町)	191千円 ・友好姉妹都市である北海道津別町との交流を図るため、津別町の児童の受入れを行なった。 受入れ期間 2泊3日 受入児童数 27人	3.2	
国内姉妹都市交流事業(東京都小笠原村)	1,086千円 ・友好姉妹都市である東京都小笠原村との交流を図るため、市内の生徒を連れて小笠原村を訪問した。 訪問期間 5泊6日 訪問生徒数 15人	3.2	

中項目 政策:文化づくりの推進
 施策:地域資源を活かした地域文化の振興 担当課:生涯学習課

小項目	実績	評点	点検評価
文化振興推進事業	8,189千円 ・市民の芸術文化の意識の高揚と地域文化の充実と拡大を図るため市民文化祭及び各種事業を開催した。 ・文化講演会事業(演者:森永卓郎 参加者280人) ・市文化協会主催の市民文化祭(5地区開催)、文化講演会等の開催並びに事務運営費に対して補助金を交付した。 ふるさと再見ガイドツアー、書道展、囲碁将棋大会等実施 (文化協会会員 2,325人) ・市文化協会に所属する専門部(120部程度)の活動費に対して補助金を交付した。 補助金は市文化協会に一括補助し、専門部に分配する。 ・社会教育団体へ補助金を交付し、地域の文化振興の推進を図った。(太鼓保存会・小笠原長清公顕彰会等) * 社会教育団体 H22年度末44団体 ・陶芸施設(八田・甲西)及び太鼓の維持管理に努め、市民の自主的な文化・生涯学習活動が行える環境を整えた。 ・国民文化祭山梨県大会に向け、事前準備を進めるために開催地(岡山県)の視察を行った。	3.4	文化講演会は、市立図書館の講演会と統合を検討してみたらどうか。 文化協会の会員減少、高齢化が進む中、市民の文化活動の活性化を図る事業推進に、より一層努力したい。

担当課:文化財課

小項目	実績	評点	点検評価
文化財保護事業	8,717千円 豊かな自然とともに貴重な文化遺産を後世に残すため、市内の指定文化財の保護を行った。また、学校教育や生涯教育と連携しながら文化財の活用及び広報誌等を通じて啓発事業を実施した。また予めより課題だった指定看板の町村標示を南アルプス市へ修正した。 実施事業 ・国史跡 将棋頭・石積出、県指定物見塚古墳の維持管理(草刈等) ・県指定天然記念物 鏡中条ごよう松・宝珠寺の松の害虫防除事業補助 ・文化財防火デーの一環として、六角堂(櫛形地区)、長谷寺(八田地区)での防災訓練 ・指定文化財管理報償金の交付(131件) ・長谷寺本堂(国指定)防災設備点検委託補助 ・国指定文化財三恵の大ケヤキに薬剤散布及び周辺整備 ・仏像等悉皆調査(継続事業)22年度 報告書の作成 ・県指定穂見神社本殿屋根修理事業補助 ・市指定木造野中神社地蔵菩薩坐像安置建物修理事業補助 ・指定文化財看板標示65箇所修正 ・教育普及事業実施(学校及び一般講座) 実施事業176事業(前年度175事業) 参加人数8,826人(前年度7,871人) ・普及啓発事業実施 広報南アルプス掲載10回 南アルプスふるさとメール掲載11回・CATV放映4回 ・南アルプス市フルーツ山麓フェスティバル文化財ブースの出演 ・インターンシップ受け入れ事業実施(大学生3名 中学生4名)	4.2	学校への出前講座は教材、内容、形態等豊富で好評である。郷土の理解を深め、郷土愛を育てる上での役割を果たしている。

小項目	実績	評点	点検評価
埋蔵文化財調査事業	<p>12,339千円</p> <p>埋蔵文化財は、郷土がどのように歴史をたどって成り立っているかを知る重要な手がかりとなる。本市の埋蔵文化財についても同様で、重要であり発掘調査と保存に努めている。</p> <p>実施事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・史跡の保全、公開、活用のため、御勅使川旧堤防用地取得 (22年度は180.04㎡を取得) ・埋蔵文化財調査及び照会事業:遺跡有無等の照会582件(前年度626件)、試掘確認調査実施35件(前年度32件)、工事立会実施87件(前年度61件)、本調査実施3件(前年度2件) ・体験学習事業:史跡めぐり、土器造り、昔の暮らし体験、火起し 体験等 ・遺跡情報発信案内板設置事業:野牛島(伝承館敷地内) ・平成21年度市内試掘調査報告書の作成 ・下市之瀬上宮地線建設に伴う発掘調査報告書の作成 ・埋蔵文化財等広報資料作成事業:埋蔵文化財ガイドブック第1集改訂版、第3集大地の記憶の刊行 	3.6	体験学習事業について、より幅の広い年齢層の参加につながる事業の推進を再考していく。
埋蔵文化財調査受託事業	<p>11,234千円</p> <p>埋蔵文化財の調査・記録保存</p> <p>実施事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私立小学校建設に伴う発掘調査報告書の作成 ・白根農道1号線建設に伴う発掘調査 ・甲斐芦安拡幅工事に伴う発掘調査 ・甲西児童館建設に伴う発掘調査等 	3.2	
ふるさと文化伝承館運営事業	<p>8,742千円</p> <p>文化財調査事務所(ふるさと文化伝承館・甲西調査事務所)は、発掘された出土品を保管あるいは展示し、また、発掘調査された遺跡の報告書作成及び出土品の整理を目的としている。ふるさと文化伝承館については平成21年6月に開館し、地域の歴史、文化遺産や資源情報等を収集保管し整理研究しその展示や体験学習などの教育普及活動の役割と文化施策の中核となる施設として活動している。</p> <p>実施事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと文化伝承館の維持管理 ・文化財の公開展示(鋳物師屋遺跡出土品などの公開展示) ・体験学習(常時) ・古代物づくり教室の開催 ・伝承館で夏まつり(縄文体験を中心としたまつりの実施) ・小笠原流礼法基礎講座の開催 ・甲斐源氏探訪バスツアーの開催 ・エントランスでの企画展示(4回実施) ・入館者数 5,572人 ・甲西調査事務所の維持管理事業(継続) 	3.4	ふるさと文化伝承館は、開館まもないが、積極的な活動で存在の周知を図り、成果を上げている。今後は、スタッフの充実を図ることが望まれる。

小項目	実績	評点	点検評価
安藤家住宅管理費	5,630千円 平成20年4月1日より保存修復を完了した「安藤家住宅」が県から南アルプス市に譲与され、管理運営を行っている。 実施事業 ・安藤家一般公開事業:観覧者数7,023人 観覧料他1,024千円 ・展示企画事業:桜井実展、ひな祭り、端午の節句飾り展等、5件 ・各種催事事業:秋祭り、紅葉ライトアップ、お話会等9件 ・安藤家の維持管理事業	3.2	ソフト面での努力は素晴らしい。駐車場の整備などハード面での向上も期待する。
きめ細かな臨時交付金 文化施設維持事業	301千円 文化施設維持事業 実施事業 ・ふるさと文化伝承館施設設備修繕(消防設備、昇降機) ・安藤家住宅施設設備修繕(浄化槽、消火栓)	3.2	

中項目 政策:文化づくりの推進
施策:芸術・文化施設の充実

担当課:生涯学習課

小項目	実績	評点	点検評価
桃源文化会館維持管理事業	182,229千円 ・市内の芸術文化の拠点施設である桃源文化会館の施設維持管理及び事業運営の推進を図り、市民が充実した文化活動が行えるように努めた。 ・指定管理委託料19,260千円 ・人件費7人分補助42,447千円 ・電話交換機修繕・ホール下手側階段壁面修繕の実施 ・舞台照明設備改修工事(90,363千円)、パイプオルガンオーバーホール事業(24,360千円)の調査実施 H22年度利用者数 77,659人	2.8	補助を行っていることにより、費用対効果の面からの課題もある。 市民ニーズに対応した企画を積極的に進める必要がある。 企画運営の強化を図るよう助言すると同時に見直しも進める。

担当課:市立美術館

美術館運営事業	24,960千円 ・春仙美術館 18,701千円 ・白根桃源美術館 6,259千円 美術館の環境を整備し、来館者が気持ちよく作品や施設(庭等含む)を観覧できるようにする。 また、収蔵作品がよい状態で保管ができるように維持管理を行う。	3.2	両館のあり方について検討する時期である。
---------	--	-----	----------------------

小項目	実績	評点	点検評価
美術館常設展事業	<p>5,591千円</p> <p>春仙美術館 名取春仙の作品を中心に、同時代に活躍した作家や現代作家、山梨に縁のある作家の展示を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展覧会日数:229日間 ・入館者数 :3,414人 ・入館料 :147,510円 ・春仙美術館主催事業版画講座2日間で15名 ・夏祭り「春仙夏の夕べ」:502人 <p>白根桃源美術館 郷土作家を中心に展示を行う、付属展示室は市民ギャラリーとして貸出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展覧会日数:269日間 ・入館者数 :2,856人 ・入館料 :142,820円 ・付属展示室貸出し日数:114日間 ・入館者数 :3,164人 	3.4	<p>協力会、地域住民との連携を深め、魅力ある美術館づくりに、なお一層努力していく。夏の夕べの企画は、大いに評価したい。</p>
美術館企画展事業	<p>11,959千円</p> <p>多くの市民が優れた作品を鑑賞できるように企画展を開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春仙美術館企画展事業 「中辻伸彫刻展～絆に限りなき宇宙を紡ぐ～」 開催日数:42日間 入館者数:1,903人 入館料:129,700円 美術講演会入館者数:65人 触れる彫刻鑑賞会 :114人 	3.2	<p>PR活動に工夫がみられたが、多くの市民が足を運ぶ企画展を考えたい。</p>

小項目	実績	評点	点検評価
自主活動団体支援事業 (南アルプス市体育協会補助)	75,795千円 ・南アルプス市の体育・スポーツの普及発展並びに市民の健康増進、体力向上を図っていく中心的な役割を持つ南アルプス市体育協会に、事業・運営・人件費の補助を行った。同協会も経費節減に努めている。 ・運営費補助5,544千円(事務機器賃借、消耗品、各種手数料) ・事業費補助16,745千円(市民体育祭、スイミングフェスティバル、チビリンピック等) 事業費対前年 94 ・人件費補助53,506千円(事務局長1名、職員9名) 人件費対前年 161	3.0	補助に課題もある
自主活動団体支援事業 (県外スポーツ大会出場費補助)	1,235千円 ・県外スポーツ大会に出場する南アルプス市体育協会加盟の個人・団体に対し、交付要綱に基づき補助金を交付する。 ・平成20年度に要綱を改正し(1/3補助を1/4補助に減額、予選免除競技には支給しない等)により交付額の圧縮を図っている。 補助金交付件数 H19年度 29件 H20年度 13件 H21年度 17件 H22年度 17件	3.3	
体育指導委員活動事業	7,059千円 ・スポーツ振興法で規定されている公的な社会体育指導者である体育指導委員72名を委嘱し、誰もが気軽に参加できる軽スポーツ(スポレック)の普及を図るとともに、ウォークラリー・スポーツラリー・ドッジボール大会等を開催し、市民の健康増進・体力向上の一役を担った。自主事業(高齢者を対象とした健康教室)も含めて活発な活動を展開している。 ・スポレック普及教室開催回数24回 ・各種大会参加者数ウォークラリー約420人、スポーツラリー270人、ドッジボール120人 ・健康教室16回 なお、23年度より委員数を58名に減員している	3.5	活動が活発に行われ市民の健康づくりへの意欲を高めている。 市民の健康増進に対する指導委員の役割は大きいですが、委員数の見直しの時期である。
スポーツイベント開催事業(桃源郷マラソン大会)	14,964千円 ・県内外より約6,960人の市民ランナー参加により第8回桃源郷マラソン大会を開催した。マラソンブームと事務局の努力により微増ではあるが参加者が増えている。(H21年 6,120人)現状の組織体制を維持しながら、限られた予算内で参加者を増やしている努力は評価できる。 補助金 H20年度 16,635 H21年度 15,587 H22年度 14,964(H21年6,120人 H22年6,963人 申込増に伴う参加料の増収により補助金削減となった。)	3.6	県内外に広く知れ渡るイベントに成長した。

小項目	実績	評点	点検評価
スポーツイベント開催事業(市小中学校ホッケー交流大会)	1,407千円 ・市のスポーツでもあるホッケー競技の普及拡大及び技術力の向上を目指し、年間を通してコーチを派遣している。小学生交流大会を開催し、男女各優勝チームは福井県で行われた全国大会に出場した。市内の小中学校にホッケーの普及に努めているが、拡大までに至っていない状況である。 コーチ派遣状況:白根地区4小学校延べ 190時間、同2中学校延べ342時間(当初派遣予定の小48%、中49%の実施率)	3.2	ホッケーの普及に努めていく。
スポーツ活動活性化事業(各種スポーツ教室開催)	6,239千円 ・年2期に分け幼児から高齢者までの初心者を対象に、体力向上・健康増進・生きがい作りを目的に各種スポーツ教室を開催した。また、夏季(スイミング)冬季(スキー)の教室も開催し、14種目・延べ参加者1,317名となった。今後も種目を精査しながら市民の要望に応じていく。	3.2	参加者の減少がみられる。ニーズに対応したスポーツ教室の企画が望まれる。

中項目

政策:スポーツ・レクリエーションの振興
施策:スポーツ・レクリエーション施設の充実

小項目	実績	評点	点検評価
体育施設維持管理事業(指定管理に伴う委託事業)	41,950千円 ・白根B & G海洋センター「(株)フィッツスポーツクラブ」甲西市民総合グラウンド他1「NPOトラベッツスポーツクラブ」 榊形総合体育館他10「(財)南アルプス市体育協会」の社会体育施設の管理業務を委託した。 各体育施設指定管理費用 白根B&G海洋センター24,000千円、甲西市民総合グラウンド他1施設2,987千円、榊形総合体育館他10施設13,314千円	3.1	
体育施設維持管理事業(経常的な維持・修繕)	6,408千円 ・小学校ホッケーゴール等修繕 ・若草グラウンド(北側)防球ネット増設工事(H14.5m L19.5m)4,410千円、榊形総合体育館駐車場改修工事(きめ細かな臨時交付金体育施設整備事業)不足額補正1,797千円	3.2	